「平和と人権」市民ネットワーク情報 N017-8 の 2

事務局発行(℡ 0557-45-1182) http://peaceito.moo.jp 2017.8/20

8/26、第二回青壮年沖縄派遣・報告会

◆今年、5 月 12 日から三泊四日の日程で伊東の青壮年 4 名(と小学生 1 人)が沖縄を訪れ、辺野古・高江・伊江島などを見てきました。昨年に続く、第二弾の沖縄視察です。現地で、彼ら・彼女らが何を見・感じ・考えたか。来る **8 月 26 日(土) 10:00～市役所 1 階の展望ギャラリー**にて、報告会を開きます。参加費は**無料**です。9:30 から**マルシェ**も行います。お近くの方を誘って是非お越しください。チラシを同封(or 添付)しました。ご確認ください。一行のお一人、**佐藤真由子さん**にプレ報告をしていただきます。

親子で感じた沖縄

佐藤真由子

先ずは、今回「沖縄青壮年派遣」に声をかけて頂き、３泊４日の視察行程を初参加させて頂きました事に、とても感謝しています。

昨夏の「標的の村」上映会やニュース等で沖縄基地問題に関心を持ち見ていました。それまで意識していなかった私の中では、沖縄のイメージはリゾート地。沖縄で大変な問題が起きているという事が、どこか実感が湧かないでいました。しかし、今回の視察をすることで、沖縄の基地負担の重さを実感する事ができました。特に沖縄に入って真っ先に感じたのは、本島を移動する車中でも至る場所に「米軍基地」が目の前の景色に飛び込んできて、塀やフェンスで囲まれた光景は異様なものでした。

現地２日目の朝、沖縄中南部の宜野湾市にある「普天間飛行場」を一望できるという「嘉数高台公園」の展望台に登り、飛行場を見学しました。住宅地のど真ん中にある普天間飛行場には数多くのオスプレイが配備されており肉眼でもはっきりと確認出来ました。その基地周辺には住宅や学校、大学や幼稚園が密集していて、危険と隣り合わせで衝撃を受けました。また、その公園は沖縄戦当時の激戦地でもあり、旧日本軍が使用した「トーチカ」も残されていました。破壊され、鉄筋がむき出しになり、崩れた状態を見て戦闘の激しさを感じました。その後、派遣団の方針でもある「観光」を子供とすることに。そこで念願の「美ら海水族館」へ行ってきました。そこは、目の前にコバルトブルーの海と空が広がり、素晴らしさに見惚れてしまいました。館内は多くの子供や大人たちの歓声が広がるなか、頭上を大きな音をたてながら低空で飛んで行くヘリを見て絶句。写真に納めること忘れるくらい呆然としてしまった事を覚えています。

高江では「標的の村」にも出ていた伊佐さんとお話をすることが出来ました。N4 に続き、激しく抵抗したにも拘わらず強行建設された N1 への思いや、それでも諦めずに監視を続ける地元住民が居ることに勇気を分けてもらいました。

今年の派遣も昨年と同じ時期とあって「シュワブフェス」が催されていました。前回の派遣団が叶えられなかった「キャンプシュワブ」に潜入してきました。２つのチェックポイントを

通過して目の当たりにしたのが、その広さと快適さです。米兵用の住宅、ショッピングセンター、娯楽施設に、キャンプ内タクシーが走り、そして「オスプレイ」も展示されていました。フェスだけあってテキ屋も 15 軒くらい軒を連ね、メインステージもありました。いろいろ見学する中で、キャンプ内からは綺麗な海をブイで広大な面積を囲い、ショベルカーも見え、心が痛みました。その光景を写真に納めていたところキャンプを警備する警備員一人(拳銃持ち)に呼び止められ写真を消去するよう強く求められ、貴重な写真を消去してしまった事が心残りです。また、一度は解放されたものの警備員の数がどんどん増え再び囲まれ、身分証の提示を求められました。基地内から海を撮影することは御法度のようで、新基地に対しかなり敏感になっていることを肌で感じとることが出来ました。

キャンプ内の見学の後、辺野古テント村に行き、沖縄を守るため座り込み行動を続けている現状を見ました。当時で 1,042 日目。そこで闘う人たちの熱い想いを感じ、諦めてしまったら沖縄は米軍の言いなりになってしまうとも感じました。３日目は残念ながら天候に恵まれず、東村に入った時にはすでに豪雨で、車の近くに雷が落ちるほど、移動も含めるとかなりの時間を要し、辺野古テント村での交流は叶いませんでした。

この４日間はとても貴重な体験をし、充実した日々を過ごし、とても勉強になりました。

子供には沖縄の現状を見せることを迷っていましたが、帰宅後、わが子の口から「沖縄はオスプレイが飛んでいるから住みづらいと思った」、「あの綺麗な海にまた基地を作るの？」と、話を聞かせてくれ、子供なりにも肌で感じ取ってくれていたのだと嬉しく思いました。

今後も沖縄の現状を追って行き、私に出来ることをしていきたいと思います。

予告! メガソーラー・伊東学習会

7 月 2 日の宇佐美学習会に続いて、以下のように**「伊東学習会」**を開きます。

・集会のタイトル…**過去の住民運動の経験に学ぶ－ゴルフ場建設とメガソーラー建設－**

・目的…①過去のゴルフ場建設阻止行動の経験を踏まえ、メガソーラー建設を阻止するためにどのように反対運動を進めていったらよいかを学ぶ。

②大規模な森林伐採によって引き起こされる自然災害の危険性を知り、メガソーラー建設に反対する市民の声を広める。

・講師…**岡本裕市さん**(裾野市在住)、「水と緑の環境会議」を主宰。

中田春男さん(小田原市在住)、環境アセスメントに詳しい。

・日時…**9 月 9 日(土) 13:30 受付開始、14:00 開会**

・会場…第一案：「伊東ふれあいセンター」多目的ホール

第二案：伊東市観光会館　第 1 会議室

※参加者の予想数をみながら、8 月中に会場を決定しチラシを送ります。

・参加費…無料

・主催…「平和と人権」市民ネットワーク@伊東

“保養ステイ”が無事に終わりました

◆「子どもたちを放射能から守る伊豆の会」が主催して、7 月 24 日～28 日まで第 9 回保養ステイが実施されました。福島の子どもたちを招いて、伊豆の自然を満喫しながら心身をリフレッシュしてもらおう、という企画です。スタッフのお一人、原 良和さんに寄稿をお願いしました。私(三好康昭)の体験記と合わせて掲載します。

当たり前のこと

スタッフ　原 良和

福島の子どもたちとのお別れ会で付き添ってきた母親が語った。「色々な所へも行くことができたし、お風呂も良かった。でもね、おばちゃんは伊東へ来て以前の福島のことを思い出した。前には海や川で遊べたけれども、今では海開きしても限られたところだけ。今まで当たり前だということが、福島では当たり前でなくなっているんだよね。」

参加者は、幼児を含め子ども１５名、保護者３名の１８名であった。事故から６年が経過した。子どもたちは伊豆高原での保養ステイから、どんなことを思ったのだろうか。

竹広場では、昼食の流し素麺の後まだまだ自由に遊んでもいいことを知ると「ヤッターッ」と気勢が挙がった。竹広場には、すがすがしい緑の光が降り注いでいた。足元には竹の葉で覆われたやわらかな地面があった。子どもたちは、水鉄砲やブランコなど思い思いに自由に行動し、時間が経つのを忘れていた。当たり前に遊ぶことができるということを参加者は見つめなおす機会になった。

帰りに富戸駅で見送った時のことだった。１年生の子が別れを悲しみ、車内で大泣きする声が聞こえてきた。他の乗客は一体何が起こったのかと、しきりに泣き声のする方を見つめていた。車掌さんは、「ドアを閉めにくい」とつぶやいていたそうだ。

第９回保養ステイ（４泊５日）は、子どもたちが喜んでくれる中で終えることができた。

スタッフ、ボランティア（同行・運転・お弁当づくり等）を合わせて約５０名。放射能を考える講演会やアピタ写真展（リレー歌の会）といった取り組みに参加してくださった方々。また、募金・食材や土産物提供・宿泊や会場サービスなど何百名もの方々が当たり前のようにしてくださる支援があって成り立っていた。ありがとうございました。

保養ステイに参加して

三好康昭

「子どもたちを放射能から守る伊豆の会」は今年も、福島から子どもたちを招いて保養ステイを実施しました。小学生 15 人と付き添いの大人 3 人が伊豆急富戸駅のすぐ近くの「ホライゾン」に宿泊。伊東市内の観光地・野外施設・プールで思い切り心身をリフレッシュしました。私は 25 日～27 日の三日間、日中の活動に参加しました。昨年に続いて二回目のボランティア参加です。見聞したことをスケッチします。

ボランティアで活動に加わる人が増えました。スタッフを含めると子どもの人数よりも多いくらいでした。25 日の竹広場での活動には、伊東高校の生徒 3 人が参加しました。顧問の先生の紹介だそうです。3 人とも場慣れしていないせいか、子どもたちがブランコやジャングルジムで大騒ぎして遊ぶのを遠巻きに見ていました。それに引き換え、就職の決まった女子大生は、まるで子どもを相手

に自分が遊んでいるかのように疲れ知らずに動き回っていました。竹広場のスタッフが用意してくれた流しソーメンを皆でいただきました。

26 日は朝から小雨がぱらつき、八幡野のつり橋見学ができるか心配。幸い出発時間には雨も上がり、海岸目指して出発。私は **3 人のいたずら坊主**の班を任されました。「俺より先に歩いたら、デコピンする」と警告。対島川に沿った歩道は整備されて歩きやすい。木立が頭上をふさぎ、雨を遮ります。30 分ほど歩いて崖の上に出る。荒々しい波が断崖を洗い、しぶきを何メートルも打ち上げました。が、坊主どもの視線は足もとに注がれ、道端に落ちている石ころや松ぼっくりを興味深そうに手に取って、リュックに入れていました。

雨に打たれず無事に帰着。昼食後は車に分乗して「潮風館」に向かい、ここで入浴。狭い車中で、坊主どもが「♪糸巻き巻き、♪糸巻き巻き、絡まった」とか好き勝手に替え歌を歌って、喧噪この上なし。入浴後は「道の駅」でお土産品買い。小学 2~3 年生が 4 千円、5 千円の買い物をするのに驚きました。

27 日はいよいよ大室山に登る。曇天だが雨の心配はない。頂上に上がると、風が強い。帽子を頭で押さえながら一周廻る。途中、お地蔵さんや如来様を刻んだ石像が置かれている。坊主どもは手を合わせるどころか、石像の前に置かれた賽銭箱をこじ開けようとする。手を突っ込んでお札を取ろうとする不心得者も。「この罰当たりメが！」と叱って引き離しました。案の定、一人は帰りのリフトで帽子を下に落っことしました。天罰覿面とはこのこと。

さくらの里では、芝生の上で「ゴールデン・レドリバー」が大人しく鎮座してわれわれを出迎えました。傍らの坊主に、「お前より賢いイヌがいるぞ」と教えてやると、本人も自覚しているようで、反論せず、「何というイヌなの？」と聞いてきました。

「子どもは遊びの天才」とは至言。遊具もボールも何もないのに、さっそく広場を走り回り始めました。鬼ごっこです。件の女子大生が輪の中に入って駆けまわったのはもちろんです。驚いたのは、もう還暦になろうかというご婦人が、鬼になって必死に小学生を追っかけていたこと。その後でピアニカを華麗に引いて、子どもたちのコーラスをリードしていたのには二度ビックリ。私は写真を撮っただけですが、見ているだけで疲れてしまいました。ここで一行と別れ、家路へ向かいました。

スタッフの方は 24 時間、こういう連中と付き合うのだから、体力はもちろん神経もタフでないと勤まらないだろうと思いました。今年で 9 回目だそうです。脱帽です。私は、と言えば、子どもたちを相手に、からかったり、叱ったり、笑ったり、若返りの薬をたくさんもらいました。感謝です。体力と気力があれば来年も参加して、子どもらを相手に遊びたいと思っています。その節はよろしくお願いします。

◆お知らせ

9 月 5 日(火)18:15 から静岡市で**「ペシャワールの会」代表の中村 哲さんの**の講演会が開かれます。チラシを同封(or)しました。前売券 1,300 円、当日券 1,500 円です。三好(☎45-1182)の手元に**前売券が 5 枚**あります。参加希望の方は早めに電話でお知らせください。